

教務だより

2016年4月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

自分が変わること

茗溪塾塾長 宇野雅春

合格体験記が出来上がってきました。多分、あまり読まない人の方が多いのかもしれませんが、生徒の皆さんはもちろん、先生たちにもぜひ精読していただきたいと、改めて痛感しました。成功、不成功色々あるけれど、合格体験記のすべてに貫かれている一貫した流れは「自分が変わる」という事です。

これには2つの考え方があります。周りや環境が変われば、自分も変われるという考え方と、まず自分自身の内面から変えるという考え方です。前者の場合は、被害者意識に満ちていて、「教え方が悪いから成績が伸びない」とか「家が落ちついて勉強できる環境にないから成績が上がらない」などと考えます。仕事をする大人でもこういう人は多く、「上司がだめだから自分が仕事ができない」とか「自分の能力をちゃんと見てもらえない」からうまくいかないとか考える人はたくさんいます。自分というものを絶対視していて、すべてよい条件をそろえようと必死になります。

合格体験記を読んでいて感動するのは、受験で成功した人は、決して周りのせいにしていないということです。ダメだった自分が、何かに気づき、そこから再スタートをするという変化の過程がはっきりと見えてきます。この自分を変えていこうというポジティブな姿勢とそこからやっとなつかむ合格までの本人の努力が、とても真実を物語っているように思えます。つまり、自分を変えることでしか、環境や周りの人も変えられないということです。

「自分探しの旅」という言葉がありますが、それはただより良い環境を求めて旅をするということではなく、どこまで自分ができるのか、どこまで自分が変われるのかという経験の旅のことだと思います。自分に合った何かを探すことと考える向きもありそうですが、一個人に完全に適合する社会なんてあろうはずありません。

つまり、受験が要求することは、「生徒自身が変わること」…言い換えれば「受験に合格できる人になること」だと思います。それはただ高いレベルに合格すればよいということではなく、自分の人格を一步高める努力をすることだと思います。

「合格体験記」を読んでいて、小学生だった生徒が大学へ進学…長い塾生活の中で明らかに自分を成長させていることに大きな喜びを感じました。自分の欠点に気づき自分を変えるために努力している姿はとても頼もしいと思います。そこにかかわれているという喜び、そしてまだまだ指導する側にも課題があるということ。課題があるということは存在する意義があるということ…。塾ができることは、生徒を変えることではなく「変わる」ことに導くことだと思います。なぜなら「自分を変えられるのは自分しかいない」からです。自分が変わることで人が変わり環境が変わりそこから良い結果が生まれます。

これから受験する生徒の皆さん！慢心せず、自分自身への課題を見つけよう。受験のキーワードは「変わる！」です。そこから何かが始まります。